

# オーバーコーチングが形成される背景と運動部活動の在り方について

魚見侑司 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 村田 正夫

キーワード：オーバーコーチング,体罰,勝利

## 1. はじめに

近年運動部活動の指導者によるオーバーコーチング(行き過ぎた指導・指示・教え過ぎなど)が様々な弊害をもたらしている。その結果2012年には1人の尊い命が失われ、メディアで大きく取り上げられたことは記憶に新しい。この事件から様々な運動部活動による実態が取り上げられ、体罰などの指導が世間の注目を浴び問題となってきた。

そこで本研究ではオーバーコーチングの実態を踏まえ①なぜオーバーコーチングが起こるのか②なぜオーバーコーチングによる事件が増えるのか③オーバーコーチングを一掃することはできるのか、などについて調査を行い、これからの運動部活動の在り方はどうあるべきかを提言する。

## 2. 研究方法

オーバーコーチングの背景とこれからの運動部活動の在り方を追求するためアンケート調査を行った。調査対象はびわこ成蹊スポーツ大学学生の計100名にアンケート調査を行い、86%回収し、86名からアンケート調査した。

## 3. 結果 , 考察

今日、体罰については厳しい批判があり、取り締まりの強化も進んでいる。一般社会と異なった価値判断基準を有し、体罰に正の価値を付与していると考えられる部活動において、部員は他の選択肢があるなかで体罰を受容することを選択していることが本研究でわかった。オーバーコーチングが起こるのは直接的な活動の目的として「勝利」をあげている部活動が多いとは思うが、実際は、勝利することだけでは

なく、指導者の愛情、指導者の指導方法、チームの緊張感作りなど、様々な背景から起きていることがわかる。これは、外側からはみえない部活動でしかわからないものである。もし指導者の愛情からいき過ぎた指導がうまれるのであれば、競技者は理解のうえで指導者に応えて、結果を出すことで「恩返し」に繋がるのではないかと本研究を通して感じた。

これからの運動部活動の在り方はアンケート結果より、指導者だけに運営、指導を任せるのではなく、組織全体で運動部活動の目標、指導の在り方を考え、適切な指導方法、コミュニケーションの充実、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促す、運動部活動ごとに適切な指導体制を整える、運動部活動ごとにおける指導の目標や内容を明確にする、指導者のライセンス取得などが考えられる。

運動部活動は、競技者が自発的・自主的に組織し、展開する。指導者は、個々の生徒の個性を把握、理解し、その願いに応えられるように努めていくことである。

## 4. 引用参考文献

運動部活動の在り方に関する調査研究報告書 - 文部科学省

[www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/.../05/.../1335529\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/.../05/.../1335529_1.pdf)

運動部活動における体罰受容のメカニズム - 早稲田大学

[www.waseda.jp/sports/supoken/research/2011.../5010A041.pdf](http://www.waseda.jp/sports/supoken/research/2011.../5010A041.pdf)

体罰について (文部科学省提出資料)

[www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dail/siryou4-2.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dail/siryou4-2.pdf)